

令和2年度 江東区立なでしこ幼稚園 自己評価表

園長名 松岡 克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域1		健康な心と体の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・様々な体の動きができるような運動遊びを毎日取り入れ、幼児と共に遊びを楽しむ。特に「投げる力」を意識した活動を幼児の実態に応じて取り入れ様々な遊びを工夫する。	73%	・毎日、体を十分に動かして遊び、投げることを楽しめる幼児が95%以上になる。	91%	A
2	・日常生活の中で、立って靴を履く、雑巾がけ等教師が意識して保育に取り入れることで体幹、バランス感覚等を養う。	80%	・正しい姿勢で座る、姿勢を保って立つ、立って靴を履ける幼児が80%になる	78%	B
3	・サッカー教室、野球教室、体操教室等を実施し専門の講師から指導法を学び日々の保育に生かす。	83%	・体験したことを遊びの中で楽しみ、遊びの幅を広げられる幼児が95%になる。	92%	A
4	・水曜日を「歩こうデー」とし徒歩通園への意欲を高めると共に、毎月近隣の公園等に歩いて行き体力向上に努める。	70%	・週3日は徒歩で登園する幼児が80%になる。	82%	B

<結果についての分析と改善策>

- ・年中組は個人差が大きかったが、日々の積み重ねで後期にはほとんどの幼児が体を動かして遊ぶことを楽しめるようになった。自分からは興味が向かない幼児も何人かいる。
- ・体幹が弱い幼児がいる。立って靴を履く、正しい姿勢で座る等、指導しているがなかなか身につけていけない。遊びながらバランス感覚等を養えるように工夫したい。
- ・講師から教えてもらったことをチャレンジタイム等で取り組んでいった。
- ・投げることを楽しめる工夫が継続できず、年間を通じて十分に指導できなかった。
- ・「徒歩で登園する」は家庭により様々である。幼稚園でも歩くことの大切さを伝え、意欲が高まるように工夫したい。

重点領域2		学びの基礎となる力を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児一人一人と信頼関係を築きながら実態に合ったわかりやすい指導を行う。	83%	・基本的な生活習慣が身に付いている幼児が95%以上になる。	81%	B
2	・就学前教育スタンダードを意識し、全ての幼児に幼児期に必要な体験ができるように環境、援助の工夫を行う。	82%	・試行錯誤しながらじっくり遊びに取り組み、充実感をもてる幼児が90%以上になる	86%	B
3	・教師自ら自然物、自然現象、社会事象等に関心をもち幼児の知的好奇心や探究心を高められるようにする。(幼児の刺激となるような言葉かけ、環境構成、遊びのきっかけ作り等)	87%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児が95%になる。	96%	A
4	・日々の点検、毎月の安全指導、降園時パトロール、避難訓練等を確実にを行い非常時に対応できるように危機管理体制を整える。	83%	・安全指導、避難訓練の意味が分かり緊急時に適切に行動できる幼児が100%になる。	84%	B

<様式1>

<p><b>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年中組は基本的な生活習慣を身に付けることを特に大切にしてきたが個人差がある。いつ、どのような力を幼児に身に付けさせていくことが必要かを保護者と共通にし、家庭と連携を図ることが大切である。</li> <li>・就学前教育スタンダードは教師が常に意識していくものである。全ての幼児が確実に体験できるよう一人一人の育ちを捉え、評価することやどのように体験させるかを工夫することが大切である。</li> <li>・園内研のテーマが自然に関することだったので、教師自身が今まで以上に自然に目を向け、幼児と共に発見や感動をすることができた。教師の言葉がけや環境を工夫することの大切さを学んだ。今年度取り組んだことを継続していくことが大切である。</li> <li>・避難訓練はサイレンの音を怖がる幼児も数名いるが“教師がいるから大丈夫”という安心感をもたせるとともに、大切な訓練であることを伝えてきた。年中組は適切に行動することはまだ難しいが、教師の指示を聞いて従うことはできている。</li> </ul>					
---	--	--	--	--	--

重点領域3		豊かな心情を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・動植物に関心を持ち教師自らが積極的に関わり、栽培したり、自然物を遊びに取り入れたりする。	93%	・動植物に関心を持ち触ったり収穫したりすることで世話の必要性や可愛さ等を感じられる幼児が95%になる	92%	A
2	・人と関わる力が身に付くような遊びや活動を意図的・計画的に取り入れると共に幼児の友達関係を把握し適切な援助を行う。	82%	・友達との関わりの中で自分の気持ちの調整をし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が90%になる。	89%	B
3	・遊びや生活の中で様々な感情体験ができるようにし、善悪の判断や道徳性の芽生えを育めるよう状況に応じて、幼児の心に響くような言葉を考えたりや指導方法を工夫したりする。	83%	・相手の嫌がることはしない、きまりを守ることができる幼児、状況を考えて動ける幼児が95%以上になる	86%	B
4	・幼児の実態や季節に応じた絵本を選び毎日読み聞かせを行う。年10回の絵本タイムのもち方を工夫し絵本に親しめるようにする。	92%	・絵本に親しみ、イメージの世界を楽しめる幼児が100%になる。	92%	A

<p><b>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりでは友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている幼児は多い。気持ちの調整というところでは、気持ちの切り替えに時間がかかったり、相手の気持ちに気づきにくかったりすることもある。</li> <li>・様々な感情体験ができるようにプラスの感情だけでなく、マイナスの感情もそのまま出せるように援助してきた。トラブルやケンカの場面を大切に、悲しい、嫌だったという気持ちも体験できるようにした。教師がトラブルを仲介するだけでなく“自分で思いを伝えられた”という経験をすることで何らかの思いが幼児の心に残り、相手のことを知るきっかけになるように努めてきた。</li> <li>・絵本が好きな幼児が増え、年長児は文字にも興味をもつようになった。</li> </ul>					
--	--	--	--	--	--

重点領域4		教師の資質向上を図る			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・日々の保育を振り返り、実態の捉え方、幼児理解、援助について評価・反省を行い、翌日の保育につながる手立てを考え実践する。	83%	・保護者アンケートの「こどもは幼稚園に行くことを楽しみにしている」の肯定回答率を100%にする。	85%	B

<様式1>

2	・自分のよさや課題がわかり、得意なことを保育に生かしたり、苦手なことに向かって努力したりする。	79%	・学級全体の活動を楽しめる幼児が多くなり、教師が投げかけた遊びや活動に意欲をもって取り組める幼児が95%以上になる。	93%	A
3	・積極的に教材研究を行い、幼児の実態、イメージ、季節に合った教材を提示したり、遊びが充実するように援助したりする。	80%	・保護者アンケートの「教師は幼児の興味・関心を読み取り遊びがさらに楽しくなるように教材や環境作り、指導方法を工夫している」の肯定回答率が100%になる。	95%	A
4	・園内研究会、区幼研等で学んだことを実践する。幼児理解を深めると共に常に新しいことを取り入れ、挑戦しようとする意欲をもつ。	83%	・教師に受け入れられているという安心感をもち、一人一人が学級の友達に受け入れられ、自己発揮できる幼児が100%になる。	89%	B

<結果についての分析と改善策>

- ・日々の保育の振り返り、一人一人の興味・関心を捉えることが翌日の手立てに繋がる。一人一人の成長を捉えることが学級経営にも活かされてくる。全ての幼児が「幼稚園に行くことを楽しみに」できるよう努力していきたい。
- ・教材研究は常に意識してきたが、目の前の幼児の実態を捉え、経験して欲しいこと、発達段階に合った教材の工夫をしていきたい。

重点領域5		地域との連携、子育て支援			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラスだより、ホームページの更新（週1回）、写真掲示等を行うと共に、かんがる一ひろばを年15回実施し、幼稚園の良さを保護者、地域に発信し園児数増加を目指す。	77%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が100%になる。	97%	A
2	・様々な人に支えられている気持ちをもてるように教育内容を工夫すると共に、教師も積極的に地域と関わり、地域の中にある幼稚園という意識をもつ。	72%	・様々な人に支えられているという気持ちを感じ、感謝の気持ちをもてる幼児が、80%になる。	79%	B
3	・保護者一人一人の話を丁寧に聴き、保護者の気持ちを受け入れながら信頼関係を構築し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う。	83%	・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の悩みを受け止め子育てについて共に考えようとしている」の肯定回答率が100%になる。	100%	A

<結果についての分析と改善策>

- ・コロナ禍の中、かんがる一ひろば、地域との関わりは行うことができなかった。様々な人に支えられているという気持ちを感じられるような工夫や改善策を打ち出すことができなかった。
- ・ホームページは週1回、保育の様子を更新したことで、他クラスの様子を知ったり親子の会話のきっかけになったりした。
- ・園庭開放ができなかったことで、保護者と気軽に話すことやその日の出来事を伝えることが少なくなり、十分な関わりができなかった。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）